

選択必修・選択：麻酔科

I. プログラムの目的と特徴

本プログラムは、麻酔科で行う1ヶ月以上の卒後臨床研修プログラムである。その目的は、麻酔の基本的な臨床的知識・診療技術の習得を目的とする。

また、一人の人間として社会的常識を備え、医療スタッフや患者とコミュニケーションのとれる医師の育成をはかること。救急に関しては生命や機能的予後に係わる、緊急を要する病態や疾病、外傷に対して適切な対応ができるようにするとともにペインクリニック、集中治療や救急蘇生などの基本的な臨床的知識・診療技術の習得を目的とする。

II. 指導医リスト

研修指導責任者：荒木 功 (嘱託医)

プログラム参加部局

1) 手術室

III. プログラム管理運営および指導体制

プログラムの責任者、研修指導者、研修指導医による合議による指導体制の整備並びに教育の管理運営を行う。

IV. 研修カリキュラム

1. 到達目標

1. さまざまな状況に応じ、患者および家族と良好な人間関係を確立できる。
2. 基本的な検査結果を正しく解釈できる。
3. 麻酔前診察で、患者の状態を正しく評価し適切な麻酔の計画を立てられる。
4. 麻酔前診察で、患者または家族のインフォームドコンセントを得ることができる。
5. 全身麻酔、局所麻酔に必要な基本的手技を理解し、正しく施行することができる。
6. 麻酔に必要な薬理学的知識を身につけている。
7. 病態ならびに必要な応じて静脈路の確保、維持ができる。
8. マスクによる気道の確保ができる。
9. ラリンジアルマスクによる気道の確保ができる。
10. 経鼻、経口エアウェイを正しく使用できる。
11. 喉頭鏡、気管内チューブを適切に選択できる。
12. 血圧、心拍数等のバイタルサインを正しく評価できる。

13. 心電図モニターを正しく評価し、異常時に適切に処置できる。
14. パルスオキシメーターの原理を理解し、正しく評価できる。
15. 動脈血ガス分析を行い、評価できる。
16. 電解質、酸塩基平衡の異常を正しく補正できる。
17. 挿管困難症例に対して、麻酔前に予想し対策を立てられる。
18. 硬膜外麻酔、脊椎麻酔の適応および合併症について正しく理解し、処置できる。
19. 術後の疼痛について十分な対処ができる。
20. 麻酔記録を正しく記載し、内容を客観的に表現できる。
21. 血管作動薬の特徴、投与量について理解し、使用できる。
22. チーム医療を理解し、良好な人間関係を構築できる。
23. 医療における社会的側面について理解できる。

2. 研修内容

麻酔科学の一般的な診断、検査、治療の知識と技術の習得に努める。

V. 週間スケジュール

[麻酔]

毎日 麻酔前カンファレンス、臨床麻酔、術後回診

研修期間中に青森県内での麻酔科関係の研究会があれば積極的に参加し、麻酔科学及び全身管理に関する知識を深める。